

か 課題は、その本質が何かを見極めよう

まちづくり活動をしている方から「活動に参加してくれる人がなかなか増えない」という悩みを聞くことが多い。それに対して「押し付けず引き出す」という発想の転換はどうかと書いたが、もう一つ大切なことがある。それは「なぜ」という問いかけだ。

活動に参加してくれる人がなかなか増えないのは「なぜ」か。「そもそも活動が知られていないからでは」「そのためには活動についてもっと情報発信しなければならぬ」「活動を知らせるお便りもしばらく出していなかったね」「SNSなどで情報発信すれば若い人も関心を持つかもしれない」「人目に触れやすいように外に出てイベントをしてはどうか」とアイデアはどんどん広がる。が、ちよつと待つて。「なぜ」という問いかけの答えを最初から絞つてしまうのはもつたない。

改めて、活動に参加してくれる人がなかなか増えないのは「なぜ」か。「そもそも活動が知られていない」の他に考えられることはないか。「活動に参加して具体的にどのようなことをやるのかわからない」「どのような人が活動しているのかわからないので二の足をふむ」という参加する側にとつての情報不足や「活動の時間帯が参加しづらい」「活動場所が遠く行くのに不便」といった参加する環境の問題などいろいろありそうだ。

さらに「なぜ」を深掘りすると「私たちは社会的義務感のようなもので活動しているが私たち自身あまり楽しいと感じたことがない」「そもそも活動に参加の楽しさが重要などど考えたことがなかった」とか「漠然と参加者が増えないと言っているが、どのような人に参加して欲しいのか意識したことがない」「参加して欲しい人が参加して楽しいと思えることは何なのだろうか」とかいうこともあるかもしれない。

「なぜ」の答えが「私たちが必要と思つてやっている活動だが、実は地域の社会的ニーズと合っていないかもしれない」という場合もあるかもしれない。そうなると思えなければいけないのは、情報発信のメディアではなく、活動の目的や方向性といった根本の問題になる。

「課題は、その本質が何かを見極めよう」というのは、どの課題でも共通する重要な姿勢なのだ。